

第67回日本母親大会

自由を生きぬく 実践知

3年ぶり
の現地集
会！
オンライン
と併用



高知県からの参加者全員で記念撮影

10月15、16日と埼玉と群馬で第67回日本母親大会が行われました。現地集会は3年ぶりです。コロナ禍までの日本母親大会では1万人を超える女性たちが一堂に会し、その自由さと不条理に立ち向かう誠実さに毎年感動を受けてきました。ぜひ現地に行きたいと思ひ、東京の移動が苦手な私も下八川光代さん、助村さん(退婦教)と参加することにしました。

今回は現地集会和各地でのオンライン併用でしたが、2日間で現地参加のべ5000人、オンラインでの各県での視聴を含めるとのべ14000人が参加しました。全体会場にも2500人が集まり、久々の活気あふれる会場の臨場感を味わうことができました。



活気にあふれた全体会

記念講演は「自由を生きぬく実践知」を法政大学前総長の田中優子さんでした。私にとっては自分自身が現在求めているテーマであり、興味深いものでした。「自らが生きる現場において実践しながら知性を磨く」「すべての人が自由に生き抜くためには、漫然と生きるのではなく、日々実践の中から自由を生み出すことが重要。」「夫婦別姓や同性婚等、多様性を認め合

高退協読書会案内

10月例会は高橋泰宏、谷内純一、山本晶子、青木晴男、井上圭介、大川法由記の6名で熱心かつ和やかに意見交換が行われました。12月例会は以下のように行われます。参加希望者は直接お越しください。お問い合わせは次の方々のいずれかにご連絡ください。

樋口勇雄 高橋泰宏 小島真子 大川法由記
(写真 読書会風景 ムトー荘にて)

第189回(12月例会)

12月15日(木)14:00～ ムトー荘2F(205号室) 参加費 600円(会場使用料)
テキスト:山崎雅弘 著「歴史戦と思想戦 ―歴史問題の読み解き方」(集英社新書)

【著者紹介】
山崎 雅弘 (やまざき まさひろ、1967年-) は、日本の文筆家(戦史・現代史研究家)、地図職人、グラフィックデザイナー、シミュレーションゲームデザイナー。大阪出身。東京大学文学部卒業。

【本書説明】
今、出版界と言論界で一つの「戦い」が繰り広げられている。南京虐殺や慰安婦問題など、歴史問題に起因する中国や韓国からの批判を「不当な日本攻撃」と解釈し、日本人は積極的にそうした「侵略」に反撃すべきだという歴史問題を戦場とする戦い、すなわち「歴史戦」である。近年、そうしたスタンスの書籍が次々と刊行され、中にはベストセラーとなる本も出ている。戦中にも、それと酷似するプロパガンダ政策が存在した。しかし、政府主導の「思想戦」は、国民の現実認識を歪ませ、日本を破滅的な敗戦へと導く一翼を担った。同じ轍を踏まないために、歴史問題にまつわる欺瞞とトリックをどう見抜くか。豊富な具体例を挙げて読み解く。(e books 商品説明より)

来年は山口県で開催予定です。楽しみながら学習することです。オンライン、現地でも、ぜひ、一緒に(川村喜美)